



にじのはし幼稚園 園だより



令和4年10月号
港区立にじのはし幼稚園
園長 石川典子

秋分の日が過ぎ、心地よい風に秋の気配を感じます。体を動かすのが気持ちいい季節となり、子どもたちは、様々に心と体を動かして遊びを楽しんでいます。



本園は、健康な生活リズムと習慣、基本的な生活行動が身に付くようにします。

様々に体を動かし、心と体が動く気持ちよさや楽しさの体験を通して、
基本的な動きを獲得し、体幹を鍛錬し、健康な心と体を育みます。

(幼稚園経営計画 4 経営の重点の今年度の主な取り組み より)

年少組は「お化けをやっつける」と、先生が用意した小さい新聞紙を手のひらで力を入れて握り丸め、短く切ったビニールテープを指先ではがし、丸めた新聞紙に付けて玉を作りました。黒色ビニール袋で作ったお化けをねらって投げ、玉が当たると、ふんわりお化けが揺れることに手応えと面白さを感じていました。手のひらで握る、指先ではがすなどの微細運動や、全身を使って投げるなど粗大運動を経験しています。

年中組は、広いぽかぽか広場で学級のみみんなで思い切り体を動かして、『バナナ鬼』をしています。鬼に捕まるとその場で両手を上げてバナナのポーズをし、友達が助けてくれると信じ、そのポーズで辛抱強く助けを待ちます。バナナポーズの友達に気付いた子どもは、鬼に捕まりたくない気持ちもちつつも、勇気を出して友達を助けに行きます。他者を信じる気持ちや、助けようとする気持ち、ルールを守る規範意識など、心や友達関係、社会性の育ちにうれしさを感じます。

年長組は2チームに分かれて、自分たちの陣地の玉を相手陣地に投げ、陣地内の玉を減らすゲームをしていました。「玉を減らす」というチームの目的に向けて、床に落ちている玉を見つけて素早く拾い、何度も相手の陣地に投げ返していました。チーム共通の目的の実現に向け、粘り強く取り組む中で、一人ひとりが自分の力を発揮し、考えたり、工夫したり、協力したりして、チームの友達と一緒にやり遂げる、協同性が見られます。

本園では、教員が教材研究をし、「子どもたちが楽しく体を動かす」ことができるように、各学年の発達や子どもの興味関心にあった遊びや環境を用意し、子どもたちが楽しみながら意欲的に体を動かすことができるように保育を工夫しています。教員主導で運動技術を教え込み練習させるのでは、子どもがさせられている状況になり、学びが少ないどころか、評価を気にする、自信をなくす、意欲が低下する、指示を待って主体性を発揮できないなど、健康な心と体の育成には逆効果となるからです。

遊びを中心とした環境を通して行う幼児教育の実践により、子どもたちが主体的に環境に関わる中で、目的意識をもち、様々に試したり工夫したりして体を動かし、色々な動きを獲得し、運動能力や技術を高め、充実感や達成感を味わうなど、心と体を一体的に育んでいきます。今月下旬の運動会は、お子様の心身の成長を感じる機会となるでしょう。

